熊本地震の教訓を未来へ 次世代へつなぐ Vol.7

災害時に自ら考え、判断し、行動する力を養う

平成28年熊本地震から10年の節目を迎える今年、地震の教訓を次世代へ継承し、風化を防ごうとする取り組みが進められています。想定外のことが起きたとき、「自ら考え、判断し、行動する力」が問われます。

今回はそうした力をこどもたちがつけるための防災キャンプと、実践的な避難訓練を紹介します。

避難者に必要なものを考える 帯山校区での防災キャンプ

中央区帯山校区では10月25日、地域防災アカデミーキャンプが開催されました。中央区まちづくりセンターが主催し、帯山小学校3～6年生の児童24人と保護者、地域住民の方々が参加しました。

自宅でこどもが一人で留守番をしていたときに地震が発生したと想定。こどもたちは危険な場所がないか確認しながら小学校の体育館に避難しました。体育館ではテントを組み立て、エアーベッドに空気を入れて膨らませました。

次は避難者の受け付け。乳幼児や高齢者、体の不自由な方などさまざまな人が来たと想定し、何が必要かを考えました。ミルクや水、スロープ、筆談するための紙と鉛筆、翻訳ができるスマートフォンなどの意見が出ました。

昼はパッククッキング。耐熱用の袋に小さく切ったジャガイモやニンジン、カレールーなどを入れてお湯で温めて作ったカレーと、アルファ化米を試食しました。

参加した4年の朝田凪咲（なぎさ）さんと渡邉ひかりさんは「テントの組み立てが大変でした。次に地震が発生したとき困っている人がいたら、自分にできることを考えて手伝いたいです」と話しました。

参加した帯山校区防災協会の三森至加（りか）会長は「こどもたちにとって貴重な体験になりました。こどもも大人も一緒に共助の輪を広げていきたい」と語ります。


避難した人たちに何が必要かを話し合う


テントを張るこどもたち


ベッドに空気を入れて膨らませる


防災食調理の様子


カレーの出来上がり

（中央区まちづくりセンター　☎096-328-2232）

避難経路が通れなかったら… 城西小で実践的な訓練

西区の城西小学校では実践的な避難訓練を実施しています。予告なしの状況で、「地震で避難経路が通れない」「けが人が発生」「停電で放送が使えない」「火事も発生」など具体的な場面を想定し、対応。あらかじめ訓練の時間を知らせ、並んで避難経路を通って運動場に集合する通常の訓練とは大きく異なり、先生たちもとっさの判断を迫られます。

訓練では、ミッションが書かれた封筒を先生が開けます。「腕を切って血が出たこどもが『痛いよー』と言いながら近づく」「トイレは断水しているが、こどもが『トイレに行きたい』と言っている」「身動きが取れないほどの腹痛がある」などと書かれています。先生たちはどう対応するか、その場で考えました。

実際の災害に近い状況を想定したことで、避難時の判断や対応に関するさまざまな課題も見えてきました。訓練中は想定どおりに進まない場面もありましたが、それらを振り返り、改善につなげることが実践的な訓練の大きな目的です。

村上陽明教頭は、「うまくいかない訓練だからこそ多くの学びがあります。実践的な訓練を通して、災害時に適切に対応できる力を育むとともに、将来、地域の防災を支える人材の育成にもつなげていきたい」と語りました。


ミッションが書かれたカード


災害時、防火扉が閉まっても慌てないよう、毎月、「安全の日」を設定し、シェイクアウト訓練や防火扉を閉めるなどの取り組みを行う。その日は内扉で出入りする

（健康教育課　☎096-328-2728）

9ページ 自転車の交通ルールクイズの答え

正解は ×

自転車が駐車車両を避けて右側へ進路変更する際は、後方から車両が来る可能性があるので、後方の安全確認もお願いします。（道路交通法第26条の2第2項）。

熊本市コールセンター 市の手続きや休日当番医など、気軽にお尋ねください。
午前8時～午後8時（年中無休）
ひごまるコール ☎ 096-334-1500
ひごまるコール

市政へのご意見・ご提案 市民の声 投稿フォーム
市政に対するご意見やご提案等をお寄せいただき市政運営にいかしていきます。

公式ホームページ・SNS 最新情報をお届けします
ホームページ Facebook X LINE

配布に関する問い合わせ 市政だより配布センター ☎ 0120-666-659 午前8時～午後8時（土・日、祝日は除く）

発　行／広報課 ☎096-328-2043　ファクス 096-324-1713　E-mail kouhou@city.kumamoto.lg.jp

「QRコード」は（株）デンソーウェーブの登録商標です。